

ルネサスが  
双葉

- 【広告】 特集:ハイビジョン並み映像で円滑な会議を TV会議システム/日立ハイテク  
 【広告】 特集「変化の時代の企業経営、変化に即応できるIT戦略」提供:日立製作所  
 【広告】 【マルコメ】月次決算処理が30日→5日に! 運用コストも20%削減 富士通  
 【広告】 ビジネスを成功へとつなげるカラープリンタ。キャンペーン実施中! -NEC

ビジネス:ネット時評(日経デジタルコアより) 過去記事

>> 過去記事一覧

## デジタル・スタイルの構築——京都モデル(中村 伊知哉)



先斗町で飲むようになるなど学生のころには思いもよらなかった。黒塀に裸電球の小路を往来してよいのは、舞妓さん、芸妓さん、西陣や室町の旦那、医者、坊主だけ。そういう人たちだけが判読できるしきたりでもって夜ごと悪巧みが生まれていく。そう信じていた。でも近頃は不景気のせい、ここにも若者向けの明るく安くハイカラな店がたくさんできてネオンがともし、私のごとき無粋な者も気負わずのれんをくぐったりする。

### 京都の黒い小路

かつて京都の夜は、ひとときわ黒かった。空の淡い黒。山影の濃い黒。眼下に流れる鴨川の輝く黒。その手前にせせらぐ高瀬川は、この窓からは黒くて見えない。かつてここを舟で大阪に運ばれた罪人どもも、この黒の緞帳を重く眺めていたはずだ。小路を駆け抜けた新撰組も、虚勢を張りつつ、この黒に怯えていたはずだ。

先斗町のポイントとは、ポルトガル語の「先端」。中国の都に倣って建設した京の都は、ポルトガルの先進技術を取り入れた。江戸はオランダの文物に驚き、東京はドイツやフランスやイギリスの仕組みを学び、戦後はアメリカにひれ伏して憧れる。アナログの1000年、日本は世界の先端を追いかけてきた。その間、幾多の男ども女どもが、この小路を通り抜けてきた。だが今、かつての闇は、外に向かって光を放とうとしている。

### 京都スタイル

場面は変わって昨秋、ニューヨーク。フラッシュがまばゆい。テクノサウンドが耳をつんざく。目の前にライザ・ミネリが座っている。あっちにはヒルトン姉妹。スキンヘッドにレズビアンと彫った女。下着姿と毛皮コートの男同士。そんな観客を貫くステージを、ヒラヒラした布をまとったモデルたちがかっ歩する。気鋭のデザイナー「ヘザレット」によるファッションショーだ。

このヒラヒラの素材は西陣織、京友禅、丹後織物。そして最高潮は、ショーのラスト、モデル全員が京都から持ち込んだ本物の打掛を羽織って登場した場面だった。最新ファッションを凌駕する凄みで観客を圧倒したのだ。ファッションの先端で、京都が昔から蓄積してきた色とデザインを見せつけた。このショーは、京都ブランドを世界に発信する京都府の試みで、その一環としてNPO「[京都西陣町家スタジオ](#)」が「Kyoto Style」というサイトを構築している。

日本のポップカルチャーが世界的なブームとなっている。和風趣味のハリウッド映画も相次いだ

りして、ニッポンはポップでクールという評判だ。だがそうした文化は、急に生まれたわけではない。色彩や紋様。手触りや香り。澄んだ音や四季の山々。それら全てのもの、アナログの1000年にわたりつちかかってきた結晶の表面が、改めて海外から発見されたということではないか。

### 京都デジタルキッズ

デジタル技術の面でも京都は先進地だ。名だたる先端企業がひしめき、研究機関も高水準だ。西陣町家のほか、コンピューターを使ったこどもの課外教室を開く「CAMP」、市民無線インターネットを構築する「みあこネット」、新世代のITを切りひらく「ATR」など、日本の情報化をリードするユニークな取り組みも多い。新技術を使って、京都の美意識を発散していけないか。

このような思いから、さきごろ「京都デジタルキッズ」という協議会が発足した。デジタルのハード、ソフト双方に携わる人々のプラットフォームだ。ひとまずこどもに関する取り組みから始めていくが、多面的な情報交換を通じて、ポップでクールなプロジェクトを創出していく。それを世界に発信する。京都府の音頭取りにより、京都西陣町家スタジオ、NPO「CANVAS」、[スタンフォード日本センター](#)の共催で運営される。新しいデジタル・スタイルを模索するローカルな取り組みだ。

以上、一例である。それぞれの町、それぞれのコミュニティに、それぞれの歴史と持ち物がある。それを活かす。デジタルのモデルを打ち立てる努力は、あちこちの街角から、夜の小路から、始まる。

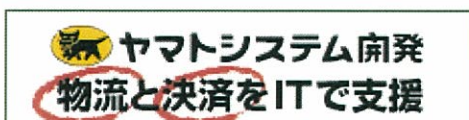
#### —筆者紹介—

中村 伊知哉(なかむら いちや)  
スタンフォード日本センター研究所長



#### 略歴

1961年生まれ、京都市出身。京都大学経済学部卒。在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターなどを務める。84年郵政省入省。電気通信局、放送行政局、登別郵便局長を経て、通信政策局でマルチメディア政策、インターネット政策を推進。93年からパリに駐在し、95年に帰国後は官房総務課で規制緩和、省庁再編に従事。98年郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就くとともに渡米、MITメディアラボ客員教授に就任。2002年9月から現職を兼務。経済産業研究所コンサルティングフェロー、(社)音楽制作者連盟顧問、NPO「CANVAS」副理事長を兼務。著書に『インターネット、自由を我等に』(アスキー出版局)、『デジタルのおもちゃ箱』(NTT出版)など。



#### NIKKEI NET

##### 新製品

- パソコン関連
- ソフト&サービス
- 自動車
- AV&通信
- 生活
- ホビー&レジャー